

地層構成による地盤区分と適用地盤改良工法(工法選定シート)

2011年1月現在

地盤調査結果	基礎下に自沈層なし		基礎下に自沈層あり					GL-15mまでに良好地盤なし
	qa \geq 接地圧	基礎下2mまでのみ自沈層あり		基礎下2m以深にも自沈層あり				
		表層のみ自沈層 (自沈層厚1m未満)	自沈層厚1m以上	GL-10mまでに回転層あり		GL-15mまでにN \geq 10地層あり		
				中間回転層 N \geq 5~10程度	回転層連続 N=3~10	中間良好層 N \geq 15	支持層連続 N=10程度以上※1	
基礎形式	標準基礎	標準基礎	独立基礎(フーチング+スラブまたは基礎はり+スラブ)					特殊基礎
地盤改良仕様	無改良(要転圧)	面状地盤補強工法	杭状地盤補強工法			杭基礎		要検討
サムシング 取扱商品		在来表層改良工法	NSVコラム工法・HITSコラム工法・PROP TYPE-S※3					ジオクロス工法
		(転圧)※2		DM工法			コロンブス工法	
			エコジオ工法	SMD杭工法				
地盤種別	Type I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
基礎・地盤改良仕様の模式図	<p>良好地盤</p> <p>軟弱地盤</p> <p>層厚1~2m以上確保 エコジオ工法は補強体長5mまで</p> <p>柱状改良は補強体長8mまで DM工法は補強体長13mまで</p> <p>層厚1~2m以上確保</p> <p>GL-15m程度まで</p>							
必要な地盤調査	SWS試験のみで対応可能					ボーリング調査		協議の上決定※4

※1: N値は目安です。

※2: 自沈層の出現深度・厚さによっては転圧のみで対応可能な場合もあります。

※3: 工法によって適用建築物が変化します。

※4: 標準圧密試験等、土質試験の実施が必要になる場合があります。